



2期生 (経営学部/ソーシャルマネジメント学科)

村田 菜摘

どんな状況でも めげない負けず嫌い



01 生まれと育ち

今の私につながるもの

1996年1月13日、京都で生まれた。小学生から中学生にかけては人見知りが激しく、内向的な性格で人と話すことも億劫なほどだった。小学生、中学生時代は特に熱中することもなく変わらない毎日を通すごしていただけだった。

そして高校では商業高校に通っていた。高校生になると学校での行事や授業を体験していく中で、人と触れ合いながら物事を進めていくことの楽しさや人から感謝される喜びを知ることができた。

中でも一番楽しいと思ったのが専門的な授業の中で体験したことである。それは新しいものについてみんなで考え取り組むという授業であった。

具体的に取り組んでいたことは、企画を立てツアーを組み販売をしたことである。企画は京都の丹後地方を魅力に感じてもらうと旅行を企画した。そしてそれをお客様に販売するというを行った。販売したことで多くのお客様に満足してもらったことができた。お客様の笑顔を見てうれしく思ったと同時にやりがいを感じることもできた。

高校時代の体験から企画をすることの面白さを学ぶことができた。高校時代のこの経験が、就職活動においての原点だと考えている。



02 生まれと育ち

自分の転機となったむすびわざ

大学に入学した時、私は「なんとなく」で過ごしていたことが多かった。授業も決められたものを友達と一緒に受け、サークルにもなんとなくの理由で所属していた。特に大学生活が楽しいと思うこともなく過ごしていた。

そして大学2年生の時、むすびわざに参加をした。参加の決め手として、将来社会に出るまでに自分を変えたいという思いが強かったからだ。その頃も性格は小さいころと同じままで人見知りをしてしまっていた。内向的な部分がたくさんあった。

むすびわざに入った当初もみんなと話すことができずに、ただいつもと同じように過ごしていた。自分からは行動しないなどそれまでの自分と変わらなかった。しかし、このむすびわざに参加をしている中で、苦手意識があったことも徐々に克服できることが増えてきた。それは授業の中で行ってきたグループワークやプレゼンテーションである。グループワークは、最初行ったり、意見を出すことができずに周りの人に任せきりだった。そしてずっと黙っているということが多くなり、意見が伝えられなかった。

プレゼンテーションを行っていても「声が小さい」と注意を受けることが多く伝わりにくいプレゼンテーションを行っていた。「自分は一生懸命やっているのに」と悔しさを募らせていくことがあった。

04 これからのこと

周りを見て行動できる社会人になる

これから社会人になっていく中で自分のことだけでなく、周りの人を見て行動できる社会人になりたいと考える。

大学でのむすびわざの活動や長期有給インターンシップでは自分中心の考えが多かったことから悔しい思いをしたと考えている。しかし、長期有給インターンシップでは自分の体験を通してコミュニケーションが大切だと気付くことができた。この気付きを活かして自分の周りの人を巻き込みながら仕事をしていきたいと考えている。

05 大事にしたこと

将来へ向け大事にしていきたいこと

私が大事にしていきたいと思っていることは人を思いやる気持ちである。そのように考えた理由は今まで所属してきた組織の中で、人の話を聞くということや、その話について、一緒に考えて考え解決策を考えたいことがあるからだ。また周りからも「話を聞いてもらえてよかった」と言われたことがあった。

この経験から、今後人も思いやる気持ちを大事にして、精進していきたいと考えている。

この授業でのグループワークやプレゼンテーションを何回も繰り返し行っていくうちに、意見を出せるようになり、プレゼンテーションもできるくらいになりました。薄れていった。このむすびわざで多くのことを経験したことで、今の自分があると思うほどである。



03 長期有給インターンシップ

私は大学3年生の春学期に長期有給インターンシップに参加させていただいた。

このインターンシップでは私は、株式会社ファーストリテイリンググループの株式会社ユニクロでお世話になった。ユニクロでは店舗業務を体験し、レジや清掃、品出し等を主な業務としていた。これらの業務を行っていく中で、私は自分自身の問題に気付くことができた。

その問題はお客様やスタッフとコミュニケーションが取れていないということだった。私自身の経験として、お客様やスタッフとコミュニケーションをとっていないことで仕事に支障をきたしたことがあったというところからこの問題に気付くことができた。私はわからないことがあってもスタッフに質問しようと思わなかった。自分でやってみようというふうに考えていた。その考えで仕事をした結果、業務でレジを

行うとミスをしてしまうということがあり、お客様やスタッフから注意を受けたことがあった。このミスが多かったことから、店長は私がユニクロの業務や環境に慣れるまで基本の仕事からやっていくのはどうかと提案してくださり、バックルームに移動して仕事をさせてもらった。

そこで仕事をしている間、自分の問題を解決するためにお客様の動きを観察し、自分からも進んで声を掛けていこうと心掛けて行動した。そしてスタッフには業務について質問に行くことや休憩中にもお話をするように心がけた。そのように取り組んでいくとスタッフや店長からも「最近の村田さん変わってきたな」と言われることが増えた。お客様にも笑顔で対応できるように「ありがとう」と言ってもらえた。

その頑張り評価してもらえたことでスタッフの方から仕事を任せてもらったということが増えて、最終的にはレジの業務をすることが増えた。私自身の気付きからインターンシップで自分がどのように行動すればいいのか考えることが出来るようになっていきました。仕事の現場では、コミュニケーションが重要であると感じることができた。少しは成長につながったのかなと考えている。



<p>7歳 いじめにあった小学校 小学校に入学していじめにあったが、信頼できる先生に会えた。</p>	<p>15歳 高校で企画の面白さを実感 高校での授業を通じて、企画をすることの面白さを学ぶことができた。この学びを就職活動で活かしていきたい。</p>	<p>19歳 むすびわざ生の一員となる みんなと切磋琢磨して、自分の苦手なことに挑戦することができ、自分を成長させることができた。</p>
---	--	--

<p>先輩・後輩からのメッセージ</p> <p>西坂真紀 (1期生)</p> <p>静かに燃える情熱タイプ。目標を達成するために、決まったことや細かいことはきちんとこなす。取組かしがりで物静かだが、自分のプライドをしっかり持っており簡単には折れない。</p>	<p>プロフィール</p> <p>1996年1月13日京都で生まれた。現在は京都産業大学の経営学部所属している。大学2年生の時に、むすびわざコーオププログラムに参加し、現在は就職活動に向かって進んでいる。このむすびわざで約4か月の長期有給インターンシップに参加したことで改めて働くことの大変さを知ることができた。それと同時に仕事の現場でのコミュニケーションの大切さを学んだ。この学びを活かし周りからも尊敬されるような社会人になっていきたいと考える。</p> <p>倉矢衛 (3期生)</p> <p>村田さんは非常に笑顔が素敵な方です。自分が困っているときに話に乗ってくださいました。その際に的確なアドバイスを下さって、助けていただいた経験があります。</p>
---	---